

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		191	ごみ減量化対策事業		部・課	環境政策室 穂谷川清掃工場 東部清掃工場 減量業務室
総合計画との関係	基本目標等		自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等		25 ごみを減らし、資源の循環が進むまち			
	取り組みの方向		25-① ごみの発生抑制を最優先に、4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)を推進します。			
	(関連施策目標等)					
	(関連施策目標等)					
	4つの重点的に進める施策との関係					
との総合戦略関係	基本目標					
	施策目標					
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞			
	所信表明					
	2016(H28)年度市政運営方針	○	循環型社会の構築に向けたごみの排出抑制策として、一般ごみに含まれる手つかず食品等の抑制に向けた啓発や、紙類等のリサイクルに重点的に取り組む。			
	2017(H29)年度市政運営方針					
	2018(H30)年度市政運営方針	○	ごみ処理基本計画に設定したごみ減量の目標数値を達成するため、効果的なごみ減量施策に一層取り組む。			
事業概要 (目的・内容等)			ごみの発生抑制を図るため、市民・事業者・行政による4R(リフューズ:不要なものを断る、リデュース:ごみになるものを減らす、リユース:繰り返し使う、リサイクル:再生利用する)の取り組みを推進する。			

取り組み状況

これまでの取り組み状況		廃棄物減量等推進員や市民団体、事業者などと連携し、啓発キャンペーンやイベントなどを実施している。学校・保育所における4R教育を実施し、ごみへの関心を高め、4Rに関する意識啓発を行っている。	
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	・マイボトル・マイカップの持参や食品ロスの削減に向けたキャンペーン等4Rの啓発 ・保育所・幼稚園・小学校における出前講座や、中学校・高校に対する環境教育の実施 ・事業系ごみの搬入検査や事業所への立入指導	
	実績（評価）	・「4R」普及・啓発のため、小学校41校・幼稚園等29園に対して、ごみの処理や減量等を学ぶ環境学習を実施した。また、駅前・店頭等において、生ごみの水切りやマイバック・マイボトル持参等のごみ減量啓発キャンペーンを51回(12,942人)実施した。 ・本市が所管する「ひらかた夢工房」の市民ボランティアによる木工・衣類・自転車等の展示・再生販売をはじめ、小中学生によるポスターコンクールの作品展示や、ごみ減量フェアを11月に開催した(来場者数:3,000人)。また、ごみ減量講演会「食品ロスはどうして起きちゃうの？サイエンスクッキングで美味しく・効率よく」を2月に開催した(来場者数:66人)。 ・事業系ごみの搬入検査(2回)や事業所への立入指導(28事業所)を実施した。	
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	→推進	
	実績（評価）	・「4R」普及・啓発のため、小学校42校・幼稚園等34園に対して、ごみの処理や減量等を学ぶ環境学習を実施した。また、駅前・店頭等において、生ごみの水切りやマイバック・マイボトル持参等のごみ減量啓発キャンペーンを49回(11,965人)実施した。 ・枚方版食べ切り運動として、「食べのこサンデー」の取組の実施・啓発を行った。 ・本市が所管する「ひらかた夢工房」の市民ボランティアによる木工・衣類・自転車等の展示・再生販売をはじめ、小中学生によるポスターコンクールの作品展示や、ごみ減量フェアを11月に開催した(来場者数:4,000人)。	
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	→推進	
	実績（評価）	・「4R」普及・啓発のため、小学校39校、幼稚園等34園、高校2校、中学3校に対して、ごみの処理や減量等を学ぶ環境学習を実施した。また、駅前・店頭等において、生ごみの水切りやマイバック・マイボトル持参等のごみ減量啓発キャンペーンを40回(9,182人)実施した。 ・「食べのこサンデー」運動ロゴマークを公募し、決定したロゴマークを活用した啓発により、食品ロス削減に向けた取り組みを進めた。 ・ごみ減量フェアにおいて本市が所管する「ひらかた夢工房」の市民ボランティアによる木工・衣類・再生自転車の展示・販売をはじめ小中学生によるポスターコンクールの作品展示を行い、ごみ減量やリサイクルに関する情報を市民に広く発信した。(来場者数:3,800人)。 ・ごみ減量講演会(参加人数:101人)、出前講座(7箇所で開催参加人数:188人)を行い、ごみ減量やリサイクルに関する情報を発信した。 ・事業所への立入指導(25事業所)を実施した。	

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	→推進
	実績（評価）	・「4R」普及・啓発のため、小学校39校、幼稚園等27園、高校2校、中学3校に対して、ごみの処理や減量等を学ぶ環境学習を実施した。また、駅前・店頭等において、生ごみの水切りやマイバック・マイボトル持参等のごみ減量啓発キャンペーンを38回(9,665人)実施した。 ・出前講座(2箇所で開催参加人数:65人)を行い、ごみ減量に関する情報を発信した。 ・「食べのこサンデー」について市ホームページやごみ分別アプリ、ラッピングしたごみ収集車両による啓発活動により啓発情報発信を行った。 ・ごみ減量フェアにおいて本市が所管する「ひらかた夢工房」の市民ボランティアによる木工・衣類・再生自転車の展示・販売をはじめ小中学生によるポスターコンクールの作品展示を行い、ごみ減量やリサイクルに関する情報を市民に広く発信した。(来場者数:3,000人)。 ・事業所への立入指導(25事業所)を実施した。
備考		

課題・今後の対応	・市民1人当たりのごみの排出量は目標値を達成してさらに減少傾向にあるが引き続き4Rの取り組みを推進する。 ・事業者に対しては、資源物の店頭回収をはじめとした4Rの取り組みへの協力を求めていく必要がある。 ・排出事業者の分別を徹底する。 ・「食べのこサンデー」を周知することにより食品ロス削減の取り組みを進める。 ・駅前・店頭等において、生ごみの水切りやマイバック・マイボトル持参等のごみ減量啓発キャンペーンを実施する。 ・小・中学校、高校、保育園等への環境学習に加えて、大学の学園祭や地域への出前講座など、啓発の場を拡充していく。	
達成状況（実行計画）	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）○:達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)		単位
市民1人当たりのごみの排出量		○		856	853	846	828	827	811	840	g	
指標の説明				市民1人当たりのごみの排出量は減少傾向にある。							当初目標値	達成年度
ごみの排出量(1日当たり)／人口												
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)		単位
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)		単位
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)		単位
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)		単位
指標の説明											当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	1,483	0	0	0	0	0	1,483
2017(H29)年度	1,596	0	0	0	0	0	1,596
2018(H30)年度	1,955	0	0	0	0	0	1,955
2019(R1)年度	2,279	0	0	0	0	0	2,279

整備事業の場合の総事業費	0千円	(建設経費	0千円	, 用地費	0千円)
--------------	-----	-------	-----	-------	------

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		192	ごみ資源化事業	部・課	環境部 減量業務室 穂谷川清掃工場 東部清掃工場
総合計画との関係	基本目標等		自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等		25 ごみを減らし、資源の循環が進むまち		
	取り組みの方向		25-① ごみの発生抑制を最優先に、4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)を推進します。		
	(関連施策目標等)				
	(関連施策目標等)				
	4つの重点的に進める施策との関係				
と総合戦略の関係	基本目標				
	施策目標				
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞		
	所信表明				
	2016(H28)年度市政運営方針	○	循環型社会の構築に向けたごみの排出抑制策として、一般ごみに含まれる手つかず食品等の抑制に向けた啓発や、紙類等のリサイクルに重点的に取り組む。		
	2017(H29)年度市政運営方針				
	2018(H30)年度市政運営方針				

事業概要 (目的・内容等)	ごみの焼却量削減や資源の有効活用を図るため、ペットボトルや空き缶、小型家電等のごみの資源化を推進する。 また、市民ボランティアのリサイクル活動を支援する。
------------------	--

取り組み状況

これまでの取り組み状況		・サブリ村野のリサイクル工房での活動を引き続き、市民ボランティアによる枚方市のごみ減量施策に沿ったリユース・リサイクル活動を進めるため、平成25年4月にひらかた夢工房を穂谷川清掃工場内に開設した。また、平成26、27年度にはひらかた夢工房発表会を開催し、ごみ減量と日ごろの活動を市民に啓発した。 ・溶融スラグや溶融飛灰の資源化を平成26年度から開始した。 ・ペットボトル・プラスチック製容器包装や空き缶、びん・ガラス類の資源化を行っている。 ・小型家電リサイクルの取り組みを平成26年度に試行的に開始し、使用済小型家電の資源化を行っている。
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	①ペットボトル・プラスチック製容器包装や空き缶、びん・ガラス類の資源化の推進 ②小型家電リサイクルの推進 ③市民ボランティアのリサイクル活動の拠点「ひらかた夢工房」の活用・支援 ④新たな資源化方策の検討
	実績（評価）	①適正排出による資源化の推進を図るため、ひらかた便利帳2017に分別排出の方法等を掲載した。また、ごみカレンダーを作成し、地域毎の各ごみ種別の排出日について明瞭化を図った。 ②ボックス回収、ピックアップ回収に加え、イベント回収を計4回実施した。また、FMひらかたの環境定期便(8月)において、小型家電に関する情報発信を行った。回収量の実績は77.78t。 ③ひらかた夢工房内の市民ボランティアによる、講習会・教室・発表会などを計25回開催し、566人の参加があった。工房来場者の総数は1,666人。 ④再生資源集団回収報償金登録団体に加入していない市民が、既存の集団回収場所に排出できる制度等について検討を行った。
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	①ペットボトル・プラスチック製容器包装や空き缶、びん・ガラス類の資源化の推進 ②小型家電リサイクルの推進 ③市民ボランティアのリサイクル活動の拠点「ひらかた夢工房」の活用・支援 ④新たな資源化方策の検討
	実績（評価）	①適正排出による資源化の推進を図るため、ごみカレンダーを作成し、地域毎の各ごみ種別の排出日について明瞭化を図った。 ②小型家電リサイクルの推進を図るため、オリンピック・パラリンピック競技委員会が取り組む「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加し、小型家電に関する情報発信を行った。回収量の実績は67.57t。 ③ひらかた夢工房内の市民ボランティアによる、講習会・教室・発表会などを計23回開催し、196人の参加があった。工房来場者の総数は1,374人。 ④再生資源集団回収報償金登録団体に加入していない市民が、既存の集団回収場所に排出できるように、集団回収登録団体に実施協力の依頼を行い、情報提供してよいかを登録団体へ確認した。

2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	①古紙の行政分別回収の検討及び準備 ②ごみの4R推進に係る市民周知(説明会の実施、「ごみマニュアル」の作成、全戸配布、音訳・点訳及び翻訳) ③ごみアプリによる分別排出の周知
	実績(評価)	①古紙の行政分別回収について古紙リサイクル業者と契約を締結し、実施に向けて協議を行った。 ②「臨時ごみ」、「持ち込みごみ」に含まれる布団のリサイクルを開始した。リサイクル量の実績は6.03t。 ③「家庭ごみの分け方・出し方」を全戸配布し、ごみの4R推進に係る市民周知を行った。 ④枚方市版ごみ分別アプリ「さんあーる」を配信することにより分別排出の周知を行った。ダウンロード数4,073件(平成30年12月～平成31年3月) ⑤ひらかた夢工房内の市民ボランティアによる、講習会・教室・発表会などを計25回開催し、197人の参加があった。工房来場者の総数は1,168人。
2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	→推進
	実績(評価)	①紙類(新聞紙、段ボール、雑誌・雑がみ)の行政分別回収について広報誌、市HP、ごみ分別アプリ、地域説明会等により市民周知を行った。説明会参加者603人。 ②令和元年6月から紙類(新聞紙、段ボール、雑誌・雑がみ)の行政分別回収を開始した。483.92tの古紙を回収。 ③「臨時ごみ」、「持ち込みごみ」に含まれる布団を9.41tリサイクル業者に引き渡した。 ④枚方市版ごみ分別アプリ「さんあーる」を配信することにより分別排出の周知を行った。令和元年度のダウンロード数は8,625件。 ⑤ひらかた夢工房内の市民ボランティアによる、講習会・教室・発表会などを計23回開催し、204人の参加があった。工房来場者の総数は1,026人。
備考		

課題・今後の対応	・各種廃棄物の資源化は、一定の水準まで高まっており、減少傾向となった状況から資源化率を向上することが困難。 ・紙類(新聞紙、段ボール、雑誌・雑がみ)の行政分別回収の実施後も一般ごみに再生可能な紙類が混入。 ・ひらかた夢工房の活動が活発化する取り組みが必要。 ・家庭系一般ごみに含まれる再資源化可能な紙類の行政分別回収を実施する。また、引き続き周知啓発を行う。 ・「臨時ごみ」、「持ち込みごみ」に含まれる布団のリサイクルを実施する。 ・ひらかた夢工房の市民ボランティアによるごみ減量施策に沿った活動について支援を行う。また、周知を行う。 ・アプリの普及によりごみの分別排出を促進する。		
達成状況(実行計画)	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況(市長公約)	○:達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
ごみの資源化率	○		21.9	21.2	20.4	20.2	19.8	19.6	22.6	%	
指標の説明			再生資源集団回収量の低下により、減少傾向となった。							当初目標値	達成年度
資源化できたごみの量／ごみの総排出量											
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	227,988	0	0	0	0	0	227,988
2017(H29)年度	271,441	0	0	0	0	0	271,441
2018(H30)年度	295,453	0	0	0	0	0	295,453
2019(R1)年度	268,309	0	0	0	0	0	268,309

整備事業の場合の総事業費	0千円	(建設経費	0千円	，用地費	0千円)
--------------	-----	-------	-----	------	------

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		193	ごみ置場適正管理推進事業	部・課	環境部	環境政策室 減量業務室
総合計画との関係	基本目標等		自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等		25 ごみを減らし、資源の循環が進むまち			
	取り組みの方向		25-① ごみの発生抑制を最優先に、4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)を推進します。			
	(関連施策目標等)					
	(関連施策目標等)					
	4つの重点的に進める施策との関係					
と総合戦略の関係	基本目標					
	施策目標					
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞			
	所信表明					
	2016(H28)年度 市政運営方針					
	2017(H29)年度 市政運営方針		○	ごみ置場の適正管理を図るため、カラス対策ネットの適正利用に向けた啓発を進めるとともに、より効果の高い箱型カラス対策ネットの普及を図る。		
	2018(H30)年度 市政運営方針					
事業概要 (目的・内容等)			ごみ置場の適正管理として多くのごみ置場でカラス対策ネットが使用されているが、その使用方法が十分でないことや、カラスがネットにもぐりむ等により、カラスによる被害が止まらない状況となっていることから、カラス対策マニュアルを整備するとともに、より効果の高い箱型のカラス対策ネットの普及・促進を図る。			

取り組み状況

これまでの取り組み状況		平成29年度新規事業	
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標		
	実績（評価）		
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	①カラスによるごみの散乱被害防止対策の助言・啓発 ②カラス対策マニュアルの作成・周知 ③箱型カラス対策ネットの購入費用の一部を支援	
	実績（評価）	カラス対策マニュアルを15,000部(240,000円)作成し、自治会等を通して住民へ配布し、周知を行った。 10月から箱型カラス対策ネットの購入費用の一部を支援する補助制度を実施し、191件(1,932,700円)の補助を行った。	
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	①②③→推進	
	実績（評価）	カラス対策マニュアルを、本庁受付、市民室及び各支所窓口に配架し、周知を行った。 4月から箱型カラス対策ネットの購入費用の一部を支援する補助制度を実施し、157件(1,969,600円)の補助を行った。	

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	①②→推進 ・事業の効果検証
	実績（評価）	カラス対策マニュアルを、本庁受付、市民室及び各支所窓口配架し、周知を行った。 本事業の効果検証を行うため、アンケート調査（調査対象320件・回収250件・回収率約78%）を実施し、98%以上の方にその効果を実感したとの結果で、引き続き、継続を希望する意見も多かった。
備考		

課題・今後の対応	カラス対策マニュアルによる周知を今後も行っていく。 箱型カラス対策ネットの購入費用の一部を支援する補助制度については、平成30年度で終了。 事業終了につき計画管理についても終了とする。		
達成状況（実行計画）	◎: 事業完了・目標達成	達成状況（市長公約）	◎: 事業完了・目標達成

関連指標

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
箱型カラス対策ネットの導入件数(累計)				-	-	0	191	157	0	400(H30)	件	
指標の説明				平成30年度で箱型カラス対策ネットの購入費用の一部を支援する補助制度をは予定通り終了し、令和元年度は効果検証を行うため、アンケート調査(調査対象320件・回収250件・回収率約78%)を実施した。							当初目標値	達成年度
箱型カラス対策ネットを購入し、購入費用の支援を受けた件数(累計)												
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	0	0	0	0	0	0	0
2017(H29)年度	2,173	0	0	0	0	2,173	0
2018(H30)年度	1,970	0	0	0	0	1,970	0
2019(R1)年度	0	0	0	0	0	0	0

整備事業の場合の総事業費 0 千円 （建設経費 0 千円 ， 用地費 0 千円 ）

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		194 新ごみ処理施設整備事業		部・課	環境部 環境政策室
総合計画との関係	基本目標等		自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等		25 ごみを減らし、資源の循環が進むまち		
	取り組みの方向		25-② 穂谷川清掃工場第3プラントの老朽化に伴い、新たなごみ処理施設の整備を進めます。		
	(関連施策目標等)				
	(関連施策目標等)				
	4つの重点的に進める施策との関係				
との関係 総合戦略	基本目標				
	施策目標				
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞		
	所信表明	○	本市における将来のごみ需要予測を踏まえ、京田辺市との広域連携による環境にやさしい新たなごみ処理施設の整備に向けた取り組みを着実に進める。		
	2016(H28)年度 市政運営方針	○	老朽化した穂谷川清掃工場第3プラントの後継施設として、将来を見据えた環境にやさしい可燃ごみ広域処理施設を、京田辺市との広域連携により、京田辺市甘南備園隣接地に整備するため、一部事務組合を設立し、環境影響評価を実施する。		
	2017(H29)年度 市政運営方針	○	枚方京田辺環境施設組合による可燃ごみ広域処理施設の整備については、引き続き京田辺市との連携を図りながら取り組みを進める。		
	2018(H30)年度 市政運営方針	○	枚方京田辺環境施設組合による可燃ごみ広域処理施設の整備については、引き続き京田辺市との連携を図りながら推進する。		

事業概要 (目的・内容等)	穂谷川清掃工場第3プラントの老朽化に対応し、将来のごみ需要予測を踏まえた効率的・効果的なごみ処理を行うため、京田辺市との広域連携により、新たなごみ処理施設を整備する。 概算総事業費:201億円
------------------	---

取り組み状況

これまでの取り組み状況		・平成26年12月にごみ処理施設整備基本構想を策定し、ごみの広域処理に係る可能性を具体的に検討することとした。 ・京田辺市との可燃ごみの広域処理施設を共同で建設することに平成26年12月合意した。 ・平成27年7月「枚方市・京田辺市可燃ごみの広域処理に係る連絡協議会」を設立した。 ・ごみ処理施設整備基本計画を平成28年3月に策定した。
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	①京田辺市との一部事務組合の設置 ②環境影響評価の実施
	実績(評価)	5月に両市で構成する一部事務組合「枚方京田辺環境施設組合」を設立し、環境影響評価の実施に向けての手続きに着手した。
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	②→推進 ③地質調査及び土壌汚染調査等の実施
	実績(評価)	②枚方京田辺環境施設組合により計画段階環境配慮書が4月に、環境影響評価方法書が1月に京都府知事に提出され、環境影響評価方法書の市民説明会が2月9日、11日に開催された。 ③枚方京田辺環境施設組合により地質調査が実施された。
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	②③→推進 ④施設の設計
	実績(評価)	7月に京都府知事から枚方京田辺環境施設組合に対して環境影響評価方法書に係る意見書をいただいた。その後の環境影響評価において近くで絶滅危惧種のオオタカが発見されたため、枚方京田辺環境施設組合による環境影響調査が引き続き実施された。

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	⑤施設の整備
	実績（評価）	引き続き、枚方京田辺環境施設組合による環境影響調査が行われ、環境影響評価準備書の作成に向けて環境影響評価の手続きが進められた。
備考		

課題・今後の対応	枚方京田辺環境施設組合において、オオタカに係る追加調査や保全措置の検討及び工事に伴う保全措置の実施のため、新ごみ処理施設の稼働目標年次を令和5年度(2023年度)から令和7年度(2025年度)に見直すこととされた。 新ごみ処理施設の整備については、枚方京田辺環境施設組合が主体となるが、広域連携による事業であることから、同組合、京田辺市及び本市の3者が連携し、事業を進めていく必要がある。		
達成状況（実行計画）	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）	○:達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
新たなごみ処理施設整備の進捗状況		○		広域連携の基本合意	可燃ごみ広域処理施設整備基本計画の策定	一部事務組合の設立、環境影響評価の手続きの着手	環境影響評価の手続きの実施	環境影響評価の手続きの継続実施	環境影響評価の手続きの継続実施	建設工事着手	—	
指標の説明				広域連携による可燃ごみ広域処理施設の整備に向けて、環境影響評価の手続きを実施している。							当初目標値	達成年度

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	56,170	0	8,600	0	0	0	47,570
2017(H29)年度	73,767	0	13,400	0	0	0	60,367
2018(H30)年度	104,589	0	19,500	0	0	0	85,089
2019(R1)年度	82,660	0	12,600	0	0	0	70,060

整備事業の場合の総事業費	20,179,200 千円	(建設経費	20,179,200 千円	, 用地費	0 千円)
--------------	---------------	-------	---------------	-------	-------

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		195	東部清掃工場焼却施設長寿命化に係る整備事業	部・課	環境部 東部清掃工場
総合計画との関係	基本目標等	自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	25 ごみを減らし、資源の循環が進むまち			
	取り組みの方向	25-② 穂谷川清掃工場第3プラントの老朽化に伴い、新たなごみ処理施設の整備を進めます。			
	(関連施策目標等)				
	(関連施策目標等)				
	4つの重点的に進める施策との関係				
総合戦略との関係	基本目標				
	施策目標				
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞		
	所信表明				
	2016(H28)年度 市政運営方針				
	2017(H29)年度 市政運営方針				
	2018(H30)年度 市政運営方針				

事業概要 (目的・内容等)	<p>廃棄物処理施設に求められる性能水準を保ちつつ、施設の長寿命化を図ることを目的として、H29に「東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画」を策定した。事業を進めるにあたり、検討課題である長寿命化工事及び灰溶融炉の停止(廃止)に向けた改造工事の内容等の精査を行う。</p> <p>※「東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画」の見直しにあたり、「循環型社会形成推進交付金」の活用を踏まえたものとする。</p>
------------------	---

取り組み状況

これまでの取り組み状況		東部清掃工場の目標稼働年数を踏まえつつ、基幹的整備の改良を含めた延命化工事等を計画的に実施し、施設の長寿命化や財政負担の低減を図りながら、安定的にかつ効率的に円滑に稼働するために長寿命化計画を平成29年に策定した。			
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標				
	実績(評価)				
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標				
	実績(評価)				
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標				
	実績(評価)				

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	東部清掃工場焼却施設の精密機能検査を行い、その結果を踏まえて、長寿命化工事および灰溶融炉の停止（廃止）に伴う工事内容および工事費用等の精査を行う。
	実績（評価）	H29に策定した「東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画」を見直し、長寿命化工事及び灰溶融炉の停止（廃止）に向けた改造工事の内容等の精査を行った。灰溶融炉の停止（廃止）に向け、「循環型社会形成推進交付金」の活用を行うための基幹改良発注支援業務(8,580千円)を令和元年度に委託し、更なる環境負荷の低減及び財政負担軽減を目的とした東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画を改定した。
備考		

課題・今後の対応	策定した計画の前提条件に変更がなければ、計画に従い、事業を進めていく。		
達成状況（実行計画）	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）	

関連指標

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	0						
2017(H29)年度	0						
2018(H30)年度	0						
2019(R1)年度	8,580						8,580

整備事業の場合の総事業費	1,112,000 千円	(建設経費	1,112,000 千円	，用地費		千円)
--------------	--------------	-------	--------------	------	--	------